

# 令和4年度 兵庫県立伊川谷高等学校 学校評価

学校経営方針	夢の実現に向けて努力する生徒の育成 —— 地域に愛され、地域に貢献する伊川谷高校 ——	
教育目標	校訓「自主・協同」のもと、夢の実現に向けて努力する生徒を育成する。 自主：目標を設定し、その実現の過程で自分をよりよく変えようとする。 協同：他者と関わり、自分の役割を自覚し、その役割を果たそうとする。	
重点項目	① 学ぶ意欲を引き出す授業づくり	⑥ 質の高い教育活動を支える効率的な業務の推進
	② 夢を育む体験活動の充実	⑦ 進路指導・キャリア教育の充実
	③ 一人一人が輝く教育の推進	⑧ 意思統一が図られた生徒指導と安全教育の徹底
	④ 積極的な情報発信と開かれた学校づくり	⑨ 清掃の徹底
	⑤ ふるさと貢献活動やボランティア活動の推進	⑩ 部活動の充実

領域	標語	分掌	重点目標	評価の観点	評価項目	No.	実践目標	R4評価	R3	本年度のまとめ・改善策	分掌
総務・生徒指導・保健・進路	魅力発見！ 未然防止・早期発見・早期対応 Hearty care, Hearty support 夢にチャレンジ	総務	④	開かれた学校づくり	中学生や地域住民に本校の教育活動をPRする。	1	学校案内等を工夫し、オープンハイスクールや学校説明会で、在校生を活用しながら学校の様子を伝える。	3.8	3.7	生き生きとした様子が伝わるような学校案内を作成し、体験的な要素を増やすとともに丁寧な説明をさらに重ねて実施する。	総務
				防災教育の充実	生徒の防災意識を高める。	2	防災マニュアルを見直し、職員の共通理解をすすめる。	2.8	3.1	職員会議などで問題点を共有し、生徒とともに防災を考える時間を確保する	
				校内組織の円滑な運営	各部、学年、委員会の流れを把握し、学校組織としての効率性を高める。	3	各部・学年と情報を交換しながら連携を深める。	3.3	3.4	事前に打ち合わせをするなど、各部・学年との連携をさらに密にする。	
				読書習慣の確立	図書館の有効利用を考え、本に親しむ習慣を確立させる。	4	朝読委員会を活用する。	3.2	3.5	委員会を活用し、朝読の意義を確認しながら各クラスでの啓発をすすめる	
		生徒指導・保健	⑤	基本的な生活習慣の確立	担任や、学年の先生とのコミュニケーションを大切に。挨拶運動や遅刻指導などを通して、生徒達の規則正しい生活習慣の確立を目指す。	5	教務部と連携し、教職員の共通理解のもと、チャイムが鳴ると同時に授業に入れる指導体制を全学年で実施する。また、日々の遅刻に関しては、行事日などを重点的に様々な場面において、余裕のある行動を取らせる。反省文などを通して、振り返りさせ、規則正しい生活習慣の確立を意図させる。	3.0	3.3	授業へ入るための準備や、授業での集中力の持続などへとつながる行動を自覚させる。「よりよい行動とは何か」を自ら考える力を養わせる。日々の生活において自分の考え方が遅刻という結果として表れている場合は、改める点を確実に考えさせて、自ら行動し、約束を守るという結果に反映させていくように促す必要がある。	
				規範意識の醸成	校則をきちんと理解して守らせる。頭髮・服装指導や交通安全指導などを通して、規範意識を高める。	6	各学年・各部の教職員の協力を得て、毎朝、生徒昇降口付近でのあいさつ運動を利用して、服装指導や交通安全指導を実施する。	3.1	3.4	近隣地域からの苦情が減っていき、褒められるケースが増えるように、様々な機会を通して、今後も粘り強く、継続して指導していく。	
				安心・安全な学校づくり	さまざまな機会を通じて、他者への敬愛の心を育み、自分の行動や言動の影響(SNSも含む)を考え、いじめのない学校を目指す。	7	いじめまははじめに準ずる行為が発生した場合、「いじめ対応チーム」が中心となって、職員が連携し、迅速かつ効果的に対応する。	3.3	3.4	いじめのない学校はないという前提で、今後もいじめを許さない学校を目指す。自分を大切に、他人に対しても同じ配慮を忘れない。自分の行動や言葉使い、SNSが与える影響を考慮することができる人格の育成に努める。	
				生徒の成長を目指す支援	生徒との相談を通して心のケアを行い、生徒の内面的な成長を支援する。	8	保健室での相談内容を担任・学年に伝え、個々の生徒の指導に活かせるようサポートする。必要に応じて、キャンパスカウンセラーとの教育相談とも連携する。	3.6	3.7	保健室と学年・担任、キャンパスカウンセラーとの連絡を密にし、必要な情報を共有し、個々の生徒に有効な指導が行えるようにする。	
				保健・安全	正しい生活習慣を身につけ、安全で健康的な生活が保持・増進できるように生徒を支援する。	9	学校医や家庭との連携を密にしながら生徒の健康保持・増進に留意する。個々の症状に応じた応急処置や保健指導・助言を行う。感染症(特にコロナウイルス)について注意を喚起し、集団感染の予防に努める。	3.6	3.6	職員に対するエビデンやAED法講習会をはじめとし、職員や生徒に対する保健関係(心のサポート)の講習会・研修会を実施する。また、毎月発行している保健だよりにおいてその季節・時期に応じた情報を提供し、生徒・保護者に健康に関する注意喚起を行う。	
				学校環境衛生	安全で健康的な学校生活が送れるように、学習環境の保全・管理を行う。	10	学校環境衛生検査を行い、必要に応じて迅速な改善を要請する。	3.5	3.4	学校医・学校薬剤師と連携を密にし、職員の協力を得て学習の場の良好な環境づくりを推進する。	
進路指導	⑦	進路希望の実現	将来の進路の選択肢が広がるように支援する	11	教室を利用し、オープンキャンパスの情報を広く提供し、また入試に関する情報冊子等を、学年に配布したり、進路前に揃えたりして提供する。	3.7	3.4	今後もできるだけ精選し、提供していく。			
		進路選択の支援	生徒が自己の在り方や生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるように支援する。	12	就職・公務員・医療看護系など少数の希望生徒に対して、必要に応じた指導を行う。	3.5	3.6	今後も、指導内容の見直ししながら、継続して行っていく。			
		進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	13	3年間を見通した進路指導を行えるよう、部・学年間で情報交換を行い、研修会を開催する。	3.3	3.2	研修会を各学年1回、拡大部会を各学期に1回行っているが、学年の意見も聞きながら、柔軟に対応していきたい。			
		進路情報の提供	各部・委員会と連携しながら、有用な進路情報を生徒・教職員に提供する。	14	学年との連携を密にし、とくに第3学年の学年会議に必要に応じて出席する。	3.5	3.4	今後も、よりいっそう密な情報共有を行っていく。			
教務・情報	新たな前進 情報活用・ICT活用・ICT教育	①	基礎基本、個に応じた指導	目指す学校像に応じた教育課程を検討する。また、生徒の現状に応じた授業展開(少人数授業、ティームティーチング)の工夫を行う。	16	生徒の興味・関心、進路に応じた教育課程を編成し、本校生徒に履修させるべき科目を設定する。	3.0	3.2	選択科目においてはさらなる検討を継続する。		
			学力向上	シラバスを作成することで、各教科の目標や評価基準を明確にする。授業を年中公開する。各教科における学力向上に向けた取り組みについて共通理解を図る。	17	シラバスを作成し教室に掲示し、各教科の目標や評価基準を提示する。また、生徒の興味・関心に応じた選択科目の履修を促す。	2.9	3.3	少人数授業、習熟度別授業、ティームティーチングの授業を実施している科目について、より効果的な課程内容を目標とする。		
			情報管理体制の確立	校務支援システムの効率的な運用を図る。	21	校務支援システムを運用し、出欠、成績管理、指導要録、調査書の作成を一括して行う環境を整える。	3.0	3.2	教師が互いに授業を見て意見交換することで、より質の高い授業を目指す。また、研究授業、研究会についても重要な取り組みと捉え、今年度の後半の学び合い週間でも実施した授業を継続するなど、できるだけ負担のないように運営を工夫しながら来年度も実施していく。		
		②	ICTを活用した授業に向けた取り組みの実践	教職員のICT活用能力の向上を図る。教職員向けICT研修会で1人1台端末の活用を進める。	22	教職員の情報活用能力とICTの効果的な活用を促す。情報セキュリティ能力及びモラル向上のため日常の相談体制を充実させる。	3.0	2.8	BYOD事業に伴った授業の準備と充実に向けて、研究授業及び職員研修を実施する。また、校務での情報活用、教育の情報化の推進のために、ICT研修会を実施することを通して教職員のさらなるICT活用を目指す。		
			本校の広報	Webページの充実による情報発信と本校のPRを推進する。	23	Webページのリニューアルでより見やすく分かりやすい情報発信を目指す。本校のWebページに特色、学校行事、部活動等多様な情報を発信する。	2.8	2.9	部活動や学校行事などの情報を写真とあわせて、なるべく早くホームページにアップする。また学校案内を適切な時期に中学校に配布する。		
		学年経営	one team 夢に向かって	1学年(47回生)	基礎学力の向上と将来をみずえた学力の伸長	基礎学力の定着のため、授業を大切に、家庭学習を定着させる。	24	毎日の授業を大切にすると共に家庭学習を日々実践し、基礎学力向上と学習習慣を定着させる。	3.0	-	全体の学習に対する取り組みはあまり向上している感はない。授業+家庭学習のパターンがほとんど定着していないようである。目標は定まっているが、スタートができていない。しんどい取り組みより、楽しい学習や時間の多くを取られている。もはや依存症的になっているようであり、これを改善して学習時間を確保させるのは至難の業であると考え
					進路の実現に向けて	自分の将来像を見定め、目標達成までの道筋を考えさせる。	25	自分の適性をよく考え、なりたて姿を現実のものにするため自主的に学習に取り組む、問題解決への努力を惜しまないようにさせる。	3.1	-	各授業において活用されているようであり、操作にも慣れ、授業における学習効果は向上しているようである。しかし、家庭学習の場での程度活用しているかは疑問であるので、将来の目標に関連する事柄を積極的に探究し、その中で目標達成に近づく発見がなされる意欲向上へとつながるように指導していく。
					基本的な生活習慣の確立と、他者と共存できる力を養う。	集団の中の自分を意識し、ルールやマナー等の規律を守り、他者に迷惑や不快感を与えないようにする。	26	規則正しく毎日過ごす中で高校生として真面目に学習に取り組み、自己の能力を高めながら自分で自分に近づく努力を惜しまないようにさせる。また、普段の学校生活の中で望ましい人間関係を構築できるようにさせる。	2.7	-	出席停止以外の欠席はさほど多くはないが、自らの悪習を正すことができず遅刻や欠席が増し、登校の意欲が低下している者がいる。家庭でも協力して指導してくれているが、多くの家庭がほとんどで、親が先に家を出るためなかなか定時の登校とはならない。本人の意志と自覚にかけるしか手はない状態であり、苦慮している。
				2学年(46回生)	規範意識と自主性の育成および基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活を基盤として、さまざまな場面で自主的に行動できるように生徒を育てる。	27	学校で中心になっていく存在であることを意識させ、規則正しい生活リズムで毎日過ごし、さまざまな場面での規則やルールを踏まえて自分ができるべき行動をとらせる。さらに、事の善悪や、すべき事、してはいけない事を自分自身で考え、自らすすんで行動できるように指導する。	2.9	3.3	8・25着席を促し、朝の読書や遅刻指導を通して、けじめある態度で生活できるように取り組んでいるが、定着していない一部の生徒が目立つ現状である。最高学年になるという自覚をさせ、服装・髪型をはじめとするルールを守ることを当たり前のこととして、後輩のよき手本となるように、継続的に指導していく。
					基礎学力の向上と進路実現に向けて	具体的な進路目標を持ち、その実現に向けて学習習慣と学力を身に付け、最大限の努力をする生徒を育てる。	28	毎日の授業こそ、進路実現に向けて一番大切であることを意識させ、家庭学習を習慣化し、日々の小テストや課題に取り組みさせ、基礎学力を定着するように促す。また、継続的に学習状況の振り返りを実施し、客観的に自己評価をすることで、具体的な進路目標に向けての取り組みを考え、実践できるように促す。	3.0	3.4	今の時点でも毎日の授業や課題など、普段の学習を大切にできていない一部の生徒が目立つ現状である。毎日の授業が一番大切であることを継続的に指導しているとともに、進路行事を通して、自分の進路目標を達成するために行動することを促している。定期的にポートフォリオで振り返りさせ、目標達成のために何が必要かを考え、行動させるよう継続的に指導していく。
自尊感情の育成ならびに他者を尊重する姿勢の育成	自分自身を大切にするとともに、他者の立場に立つて物事を考え、思いやりのある行動ができる生徒を育てる。				29	自分と他者との関係のなかで、自分の言動が周囲に与える影響を意識させ、お互いに関わり尊重しあう、向上できる存在を目指させる。	3.0	3.3	修学旅行では自分の言動が学年全体にどのように影響するかを考えて行動する場面が見られ、リーダーになったり、友達を支えたりする場面が見られた。普段の学校生活の中でも、自分の立場や役割を考え行動できるように促していきたい。また、同級生の努力している姿を認め、高めあえる環境作りを継続的に努めている。		
3学年(45回生)	笑顔・夢	気付きのある日常生活と規則的な生活習慣の確立	他者の心を大切に、日々の生活にハリをもたせる。基本的な生活習慣を確立させ、規律ある生活を自ら送るようになり、高校生活最後の1年間として、今まで以上に授業に集中して取り組ませる。	30	いろいろな事から自ら興味を持ち、教わるという受け身姿勢から脱却し、進んで学ぶ姿勢を見せるための環境作りを行う。生徒同士の教え合い、学び合いを大切に「協同の精神」で人間関係の構築を目指す。	3.2	3.3	学年全体で真面目な生徒が多いと実感していた。進路決定後の登校遅刻は増加したが、裏を返せば遅刻してでも登校する生徒が多く居たということである。これは生が学校生活を楽しんでいてという状況に繋がっている。コロナ禍において学校生活も落ち着かないところがあったかもしれないが、生徒たちは臨機応変に対応してよく頑張ったと思う。			
	設定した進路目標の実現に向けて	教科指導だけでなく、日々の生活を一杯過ごすことこそが学習指導に大きくつながると認識させ、「学べることの大切さ」を感じさせる学習指導を行う。明確な進路目標を定め、その目標達成に向けて可能な限りの努力を行わせる。	31	知識の充足だけでなく、たくさんの経験を元にしたライフプランの構築を行う。積極的な姿勢による失敗体験を承認し、次に活かす教育を行う。日々の楽しい学校生活の演出により、生徒自身の活動能力を最大限に引き出し、将来の人生に希望を持たせる。	3.3	3.4	本学年は例年に比べコロナの感染状況を見ながらの進路指導であったため、情報不足であった感はないが、その中でも生徒はよく自身の進路を決定していた。推薦入試等、早くに進路を決めた生徒への学習に対するモチベーションを保つには困難が伴ったが、多くの生徒は進路先を明確にした学習の継続を行っていたと考える。しかし、一部の生徒の学習意欲の低下が顕著であったため、進路決定者に向けた校内活動の意義を伝えていくことの重要性を改めて実感した。				
	社会に通じる心豊かな人間性の育成	心豊かな人間性の育成し、自らと他者を尊重しあう態度を養う。高校卒業までの学年として、生徒自身『社会を知る』事に目を向けさせる。	32	教職員・生徒・保護者の三者間における関係作りの構築に積極的に学年通信を活用する。日々の学校生活を効果的に保護者に伝えることで、教師と保護者が協働して生徒の育成を行う。生徒の自己肯定感を伸ばし自信に繋げるための活動を積極的に行う。	3.3	3.6	生徒自身が個々の特性を活かし、学級活動や校内活動を積極的に進めていた。また、学級内において困っているものに対して集団でフォローしていくなど、クラス・学年単位での人権的配慮が行われていた。笑顔・夢という学年キャッチフレーズを大事にする生徒が本当に多く居て、校行事など自分から進んでいくことが容易に見えてきた。失敗に対する罰り方の重要性を生徒に伝えようとした三年間であったが、その効果は出ていると感じる。				
働き方改革推進	夢の実現を支える体制	⑥	定時退勤日と「ノー残業デー」「ノー部活動デー」の推進	定時退勤日の実施を進める。年休取得一人当たり10日以上を実現する。	33	定時退勤日は各部署、各教員が設定する。「ノー残業デー」及び「ノー部活動デー」は毎週月曜日を設定する。	3.1	-	毎週月曜日の「ノー部活動デー」「ノー残業デー」を継続することで、月曜日を定時退勤日として定着を図る。また、長期休業中や学期末の午前授業の期間に、年休の取得を進める。休暇制度の活用によりワークライフバランスの充実と働き方改革を進めている。	働き方改革推進	
			ICTの効果的な活用による校務の効率化の工夫	ガールン等の効果的な活用による業務改善を進める。	34	ガールンやteamsの活用により、打ち合わせや会議の効率化を図る。	3.2	-	毎朝の職員打ち合わせでの連絡は、本格的にはガールンで行うようにする。資料の配布でガールンを利用し、会議や打ち合わせ資料の事前配布と印刷物の削減を進める等も進めて、職員会議資料のデジタル配布を実施する。		

★学校関係者評価結果(学校評議員からのご意見)  
 ・「働き方改革」が強調される余り、部活動が活発に行われなくなること、中・高で部活動を頑張りたいと思っている生徒たちが不安に感じているのではないかと危惧している。  
 ・「働き方改革」の本来的な意味は、社会、生徒らのニーズに合わせて仕事内容ややり方を変化させることであるはずである。それを踏まえ、学校全体がチームとしてのまとまりを持って教育すれば、その姿勢は保護者にも伝わると思う。  
 ・重点項目のうち、「清掃の徹底」、「部活動の充実」について、どの部署からのまとめ、改善策の中にもコメントがされていない。目標と評価をリンクをさせることが必要である。  
 ・学校ホームページがリニューアルされたが、最新の情報は、PDFをダウンロードしないと見られない。もっと簡単に情報が見られるように工夫したい。  
 ・令和7年度からの発展的統合により、現伊川谷北高校を校地として新たに設置される学校について、魅力ある学校にするために地元自治会も応援していきたい。